

平成 28 年度 奈良市エイズ対策推進会議録

開催日時	平成 29 年 2 月 10 日（金）午後 2 時から 3 時 30 分まで		
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター 1 階 会議室 1-1		
出席者	委員	前田委員、宇野委員、佐藤委員、戸毛委員、上野委員、（西川委員欠席）	
	事務局	佐藤理事、竹内次長、阪口課長、山本主幹、風補佐、奥村補佐、川崎、武藤、高橋、玉永	
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	担当課	奈良市保健所保健予防課
議題 又は 案件	1 平成 28 年度奈良市エイズ対策と課題について ① 若年層への HIV 感染予防のための対策 ② HIV 感染者の早期発見・早期治療のための対策 ③ 陽性者への支援のための対策 2 平成 29 年度奈良市エイズ対策事業計画案について		
決定又は取り纏め 事項	1 平成 28 年度奈良市エイズ対策と課題について ① 若年層への HIV 感染予防のための対策 学校に興味を持ってもらえるような内容を検討 ② HIV 感染者の早期発見・早期治療のための対策 （1）保健所での HIV 抗体検査を継続するとともに、全国の性感染症の発生動向を踏まえて梅毒検査の実施を検討していく。 （2）一次医療機関への啓発として、エイズ拠点病院の医師からの啓発文を継続していく。 ③ 陽性者への支援のための対策 一事例ずつエイズ拠点病院と相談し、支援していく。 2 平成 29 年度奈良市エイズ対策事業計画については承認。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
1 平成 28 年度奈良市エイズ対策と課題について ① 若年層への HIV 感染予防のための対策 <u>正しい知識の普及</u> 宇野委員：高校生（教師を含む）へのエイズ教育や学園祭でのエイズコーナーと様々な機会を通じてアプローチしているところが良い。内容についても、HIV に特化した内容ではなく、HIV を含めた性感染症についてや相手への思いやりを学ぶきっかけとなっている。すぐに結果が出る事業ではないが、HIV についての正しい知識を普及するという保健所が果たす役割は大きいので継続して欲しい。			
② HIV 感染者の早期発見・早期治療のための対策 <u>HIV 抗体検査・相談の普及</u> 宇野委員：若者への啓発には SNS やインターネットの充実が必要。50～60 歳代については、有症状で受検されることが多いので、医療機関へのアプローチ、診療する医師への啓発が大切であ			

るが、アンケート結果よりインターネットを見て受検する人も多いので、アクセスしやすいホームページ作りが必要である。

戸毛委員：保健所の HIV 抗体検査受験者数については、県全体で受験者数が減少しているが背景として全国的に患者数が減少している。奈良県も奈良市のように対策を資料としてまとめ、協力病院との会議や担当医師等と協議の上、次年度の計画について年度当初に検討していきたい。啓発については奈良市の動画チャンネル等の媒体を利用して幅広く啓発していったらどうかと思う。HIV だけでなく梅毒について今後県も啓発していくので奈良市も検討してもらいたい。

感染不安の軽減と行動変容のための検査・相談体制の充実

セクシャルマイノリティに対する保健所の対応のあり方について

佐藤委員：相手の人格を否定するような発言はしないこと、セクシャルマイノリティとは決して珍しいことでないということを伝えていくうちにコミュニケーションがとれるようになる。関係性を築いていく中で具体的な性行動について話してくれるようになる。予防行動がとれる人については労いの言葉を述べることでその後も継続して予防行動をとってくれるようになる。まずは相手を受け止めて認めてあげることが大切。

宇野委員：専門家として意見を伝えることで十分と考える。中には快楽を求めて覚醒剤を使用している例もある。攻撃的な人もいるかもしれないが相手を尊重する気持ちを持つことで性行為について話してくれることもあるかと思う。

医療機関等への啓発

佐藤委員：受診動機としては、梅毒をきっかけに泌尿器科で発見され、その後 HIV 感染が判明する重複感染が多い印象である。梅毒による発疹が出現した場合は、皮膚科に行くことになるかと思われるので、診療科で発見してもらうことが大切である。

前田委員：当院は一般診療であり、患者の多くは高齢者である。性感染症を疑う場合は男性なら泌尿器科を紹介するようにしている。梅毒が急増していることには驚いている。

③ 陽性者への支援のための対策

保健所 HIV 抗体検査時の陽性者への告知時の意見

宇野委員：陽性告知は医療者側も気を遣う場面である。受容できる人もいればパニックに陥る人もいる。死なない病気であること、医療費については心配しなくて良いこと、急に仕事を辞める必要はなく、無症状であれば治療しながら仕事ができることを伝える。

佐藤委員：生命の危険について心配しなくて良いこと、医療機関を必ず受診するよう伝えることが大切。まずは受診行動につなげる。

2 平成 29 年度奈良市エイズ対策事業計画案について

事務局より「平成 29 年度奈良市エイズ対策事業計画案」について説明。